

平成 29 年 8 月 1 日



平成 29 年度徳島大学大学開放実践センター公開講座
「生涯学習研究院」受講生募集（秋冬期）について

1. 概要

「生涯学習研究院」は、徳島県が現在抱えている様々な地域課題の解決に資するため、一般社会人を対象に、健康・フィットネス、災害対策と ICT、社会教育（多文化理解）の 3 つの領域についての専門的な知識・技術などを体系的に学ぶ機会を提供し、自ら地域課題の解決に積極的に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを育成することを旨とする学習プログラムです。

2. 生涯学習の特定領域について、2 年間かけて体系的に学ぶ

健康・フィットネス、災害対策と ICT、社会教育（多文化理解）の 3 領域について、それぞれの領域の基礎科目、専門科目、演習、課題研究を 2 年間にわたり、体系的に学ぶプログラムです。

3. 公開講座と大学の授業を組み合わせる

大学開放実践センターが実施する公開講座だけでなく、3 つの領域に関係の深い分野の大学の授業を学生と一緒に履修するシステムになっています。

4. 「市民活動支援士」という称号を授与する

厳格な審査を経た後に本プログラムの修了者には、徳島大学大学開放実践センターから「市民活動支援士」という称号が授与されます。「市民活動支援士」は、学校や公民館における学習活動の指導者など、主体的な活動を展開することにより地域課題の解決に貢献することを目指します。また、当大学開放実践センターにおいて、一定の審査を経た後、自ら企画した公開講座を開講することも可能です。

5. 「徳大まなび連」（愛称）のメンバーになる

「市民活動支援士」の称号を授与された方々は、「徳大まなび連」（愛称）のメンバーになります。

「徳大まなび連」とは、市民活動支援士の称号を得た方々全体の愛称です。

詳細は、下記 URL をご覧ください。

URL : <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/docs/2017071900021/>

お問い合わせ先

大学開放実践センター

責任者 センター長 馬場 祐次朗

担当者 生涯学習係長 林 雅彦

電話番号 088-656-7276

メールアドレス

chgakusc@tokushima-u.ac.jp

平成 29 年度

徳島大学大学開放実践センター公開講座 「生涯学習研究院」受講生募集要項

生涯学習研究院とは

「生涯学習研究院」は、徳島県が現在抱えている様々な地域課題の解決に資するため、一般社会人を対象に、健康・フィットネス、災害対策と ICT、社会教育（多文化理解）の3つの領域についての専門的な知識・技術などを体系的に学ぶ機会を提供し、自ら地域課題の解決に積極的に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを育成することを目的とする学習プログラムです。

生涯学習研究院の特色

今日、急激な社会経済の変化のなかで、地域の連帯感や人間関係の希薄化が進み、個人が主体的に地域や社会のために活動する機会も少なくなってきました。一方で、地域の医療・福祉、防災、環境保全、国際化など対応すべき地域課題はますます増えてきており、地域社会の活性化を推進する人材育成や地域コミュニティの再構築のための仕組みづくりが求められています。

徳島大学では、これまでも大学開放実践センターや各学部・センター等においてそれぞれの研究成果を生かした特色ある公開講座や講演会等を実施し、地域振興に貢献してきました。

こうした実績を踏まえ、徳島大学ではこのたび、創造力、実践力、応用力に富み、地域課題の解決に主体的に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを養成するための本学独自の学習プログラムを開発し、平成25年度から、「生涯学習研究院」を実施しています。

このプログラムの特徴は以下の点にあります。

1. 生涯学習の特定領域について、2年間かけて体系的に学ぶ。

健康・フィットネス、災害対策と ICT、社会教育（多文化理解）の3領域について、それぞれの領域の基礎科目、専門科目、演習、課題研究を2年間にわたり、体系的に学ぶプログラムです。

2. 公開講座と大学の授業を組み合わせる。

大学開放実践センターが実施する公開講座だけではなく、3つの領域に関係の深い分野の大学の授業を学生と一緒に履修するシステムになっています。

3. 「市民活動支援士」という称号を授与する。

厳格な審査を経た後に本プログラムの修了者には、徳島大学大学開放実践センターから「市民活動支援士」という称号が授与されます。「市民活動支援士」は、学校や公民館における学習活動の指導者など、主体的な活動を展開することにより地域課題の解決に貢献することを目指します。また、当大学開放実践センターにおいて、一定の審査を経た後、自ら企画した公開講座を開講することも可能です。

4. 「徳大まなび連」（愛称）のメンバーになる。

「市民活動支援士」の称号を授与された方々は、「徳大まなび連」（愛称）のメンバーになります。
※「徳大まなび連」とは、市民活動支援士の称号を得た方々全体の愛称です。

1. 募集領域

生涯学習研究院には以下の3領域が設けられます。

領域	生涯学習・市民活動支援の内容
① 健康・フィットネス	健康をキー・ワードとした講座のインストラクターや、地域の健康づくりボランティアリーダーなど
② 災害対策と ICT	災害時に ICT を活用しながら中心となって活躍するボランティアリーダーや、災害対策の講座の指導など
③ 社会教育（多文化理解）	語学力等を活かし、社会教育の観点から国内外において多文化理解に関する事業等に携わるボランティア・コーディネーターなど

2. 出願資格

本プログラムを受講できるのは、原則として4年制大学を卒業した者、またはそれと同等の知識・技能があると本学が認めた者となります。

大学・大学院在籍者は原則として受講申し込みできません。

3. 募集定員

募集定員は、各領域とも数名です。

4. 受講年限

受講年限は原則2年間とします。但し、その間に修了できない場合は、受講を通算4年まで延長することができます。

5. 受講料

- (1) 受講料は、半期 25,000 円、年間 50,000 円とします。
- (2) 納入期間は、随時行いますので、必ず窓口で納入してください。
- (3) 納入後の講習料の返還はできませんのでご了承ください。

6. 出願方法

- (1) 生涯学習研究院の受講希望者は、本プログラムの受講動機をA4用紙に1,000字程度にまとめてください。
 - (2) 別紙「生涯学習研究院受講申込書」に、必要事項を記入してください。
 - (3) 「社会教育（多文化理解）」の領域の受講希望者は、5年以内に受験した語学能力を証明する書類（英検、TOEIC、TOEFL、IELTS等の証書の写し）があれば添付してください（レベルは問いませんが、ご自身で主体的に活動を行うのに支障のない程度）。証明書がない場合には、受講決定後、直近のTOEIC試験を受験していただきます。
- ※上記（1）、（2）及び（3）をそろえた後、出願期間内に申込み先へ郵送または直接持参してください。

7. 出願期間

- (1) 平成29年8月7日（月）～平成29年8月25日（金）17:00 必着まで
（土日を除く午前9時から午後5時まで）
- (2) 郵送の場合は、期間内に必着するよう送付してください。

8. 受講者の決定

- (1) 生涯学習研究院の受講の可否は、受講希望者が大学開放実践センターの複数の教員による面接を受けた後、決定します。

※面接は、平成29年9月21日（木）午前中を予定しています。

- (2) 受講の決定については、平成29年9月下旬までに郵送でお知らせします。

9. その他の注意事項

- (1) 公開講座や大学の授業に必要なテキスト・教材など、別途個人負担の費用が掛かることがあります。
- (2) 実習・演習等で、交通費等別途個人負担の費用が掛かることがあります。
- (3) 公開講座及び大学の授業について、単位認定は行いません。

10. 学習の流れ

生涯学習研究院における学習プログラムは、1) 基礎科目、2) 専門科目、3) 生涯学習演習、4) 課題研究の4つから構成されます。

1) 基礎科目

指導者としての素養を身に付けることができるよう、本学が開講する公開講座、授業等の中から指定するものを30時間以上受講します。大学の授業は「公開授業」の制度を利用して受けますが、試験を受ける必要はありません（単位としては認定されません）。

2) 専門科目

受講者の専攻する領域に従い、その専門性を深めるため大学が開講する公開講座、授業等の中から指定するものを30時間以上受講します。大学の授業は「公開授業」の制度を利用して受けますが、試験を受ける必要はありません（単位としては認定されません）。

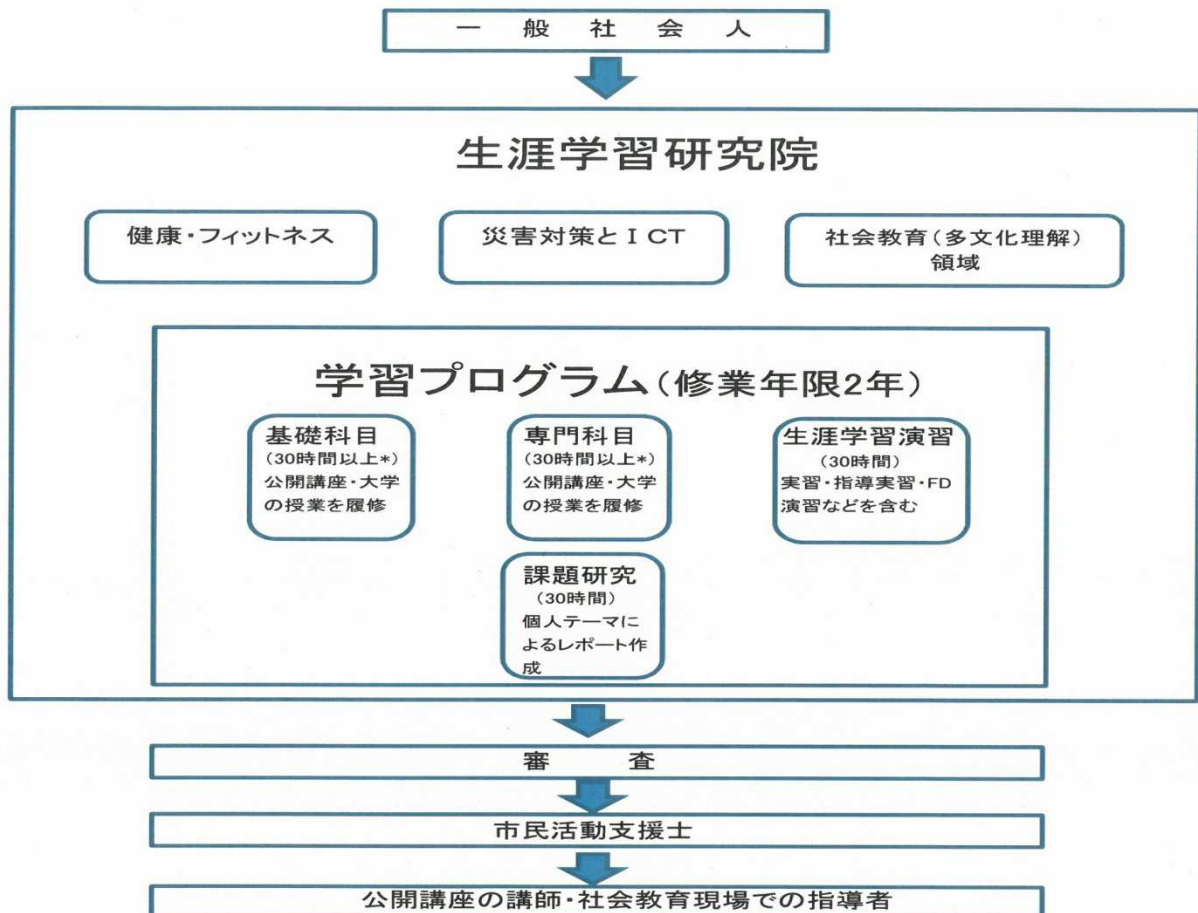
3) 生涯学習演習

各専攻領域に関係する機関・団体等での実習や、指導教員の講座・FD研修の補助等を含め、様々な学習活動を通じて、指導者としての知識・技能を高め、実践力や応用力を身に付けます。

4) 課題研究

受講者各人が、専門領域に関わる研究テーマを決定し、指導教員の指導を受けながら研究論文を作成します。

以上の学習を修了した受講生には、厳格な審査を経た後に、徳島大学大学開放実践センターから「市民活動支援士」の称号が授与されます。



【注】 *印の基礎科目、専門科目の履修にあたっては、担当教員の承認を得なければなりません。

1.1. 年間スケジュール

平成29年度の予定です。(変更することがあります)

	公開講座の履修		授業の履修		生涯学習演習 (2年次以降)	課題研究 (2年次以降)
春学期	履修登録	3月1日(月)～ 3月27日(月)	履修登録	4月4日(火)～ 4月7日(金)	/	/
	受講	4月3日(月)～ 9月30日(土)	受講	4月10日(月)～ 7月21日(金)		
秋学期	履修登録	8月1日(火)～ 8月24日(木)	履修登録	9月25日(月)～ 9月29日(金)		
	受講	10月2日(月)～ 3月31日(土)	受講	10月2日(月)～ 1月31日(水)		

1.2. 履修科目一覧

	履 修 科 目 一 覧		
	健康・フィットネス	災害対策とICT	社会教育(多文化理解)
基礎科目	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] 阿波踊り体操指導者養成(5) 長距離ウォーク(18) ヘルシーフィットネス(22.5) ヨガストレッチ(22.5) 機能改善フィットネス(25.5) シェイプアップエアロビクス(25.5) 空海と歩く(22.5)* など	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] excelで学ぶ徳島の生涯学習(15) CMSシステム入門(15) Webシステム入門(22.5)* など	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] 語学講座(15) 現代社会における生涯学習の諸相(22.5) など
専門科目	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] 健康運動の理論と実際Ⅰ(10) 健康運動の理論と実際Ⅱ(10) 健康運動の理論と実際Ⅲ(10) 地域健康福祉論(22.5)* ヘルスプロモーションの基礎(22.5)* 健康体力科学の基礎(22.5)* 運動生理学(22.5)* 応用解剖学(22.5)* スポーツ栄養学(22.5)* など	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] 気象災害を防ぐ(22.5)* 災害を知る(22.5)* 地震・火山災害を防ぐ(22.5)* 災害に備える(22.5)* など	選択科目[公開講座・大学の授業から選択] 語学講座(15) 社会教育(多文化理解)研究(10) など
生涯学習演習	健康フィットネス演習Ⅰ(10) 健康フィットネス演習Ⅱ(10) 健康フィットネス演習Ⅲ(10)	ボランティア実習Ⅰ(15) ボランティア実習Ⅱ(15)	社会教育(多文化理解)実習(30)
課題研究	課題研究Ⅰ(15) 課題研究Ⅱ(15)	課題研究Ⅰ(15) 課題研究Ⅱ(15)	課題研究Ⅰ(15) 課題研究Ⅱ(15)

【注】1. 基礎科目及び専門科目の選択科目については、毎年度指導教員との協議により定めるものとします。

平成29年度春学期分の履修については、合格後速やかに指導教員の指導を受けて頂きます。

2. *印は大学の授業で履修します。但し、希望しても定員等の事情により受講できない場合があります。

3. 開講科目名は、各年度都合により変更になることがあります。

13. 指導教員のコメント

領 域	指導教員	コ メ ン ト
健康・フィットネス	大学開放実践センター 田 中 俊 夫 教授	健康寿命の延伸は地域の抱える大きな課題です。高齢社会が進行するほど運動の果たす役割はより大きくなっていきます。また運動は単なる健康増進や機能維持のための活動にとどまらず生きがいづくりにもつながっていきます。知識と実践力、指導力を高め、地域における健康づくり運動のリーダーや指導者として活動できることを目指します。
災害対策とICT	大学開放実践センター 金 西 計 英 教授	南海トラフ巨大地震が発生した場合、徳島では甚大な被害が想定されます。我々には、防災・減災の各種の取り組みが必要となります。防災に関わるボランティアの養成は緊急の課題であり、各種の防災ボランティア講座が開かれています。防災ボランティアと言っても、その対象は多岐に渡ります。そこで、本年度は、防災と学習の関わりを取り上げたいと思います。具体的には、防災のためのワークショップを自ら企画し、実施できるようになることを目指します。まずは、各種の防災教育の実態の調査から始めたいと思います。
社会教育(多文化理解)	大学開放実践センター 鈴 木 尚 子 准教授	この領域では、語学力等を活かし、多文化理解に関する事業に携わりたい方を対象に、社会教育の観点から考察を深めます。学内では直接関連する科目はほとんど開講されていませんが、各自の問題関心に沿う授業・講座を補助的に受講しながら学習を進め、ご自身が設定した課題研究に向け、主体的に取り組む姿勢が望まれます。当領域の論文指導はワードの校閲機能を使用する他、国内外の情報を検索しますので、パソコンの基本操作(ワードによる文書作成、ファイルを添付したパソコンメールの送受、インターネット検索)を習得していることを前提とします。受講を考慮しておられる方は、関心のあるテーマについて、私のメールアドレス(センターHP掲載)まで応募前に相談して下さることを希望します。

14. 申し込み(問い合わせ)先

徳島大学大学開放実践センター
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
電話：088-656-7276、FAX：088-656-7277
(月～金 9:00～17:00)
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp>

大学へのアクセスガイド



駐車場利用についてのお願い

日頃は、大学開放実践センターの公開講座を受講いただきありがとうございます。

現在、受講生の駐車場については、センター敷地整備等で駐車場の確保に努めていますが、受講生の増加でセンター駐車場が不足しており、総合科学部や工学部に公開講座受講生の駐車スペースの提供等、協力いただいている次第です。

については、駐車場トラブルを避け、快適な受講ができますよう下記についてご協力くださるようお願いいたします。

記

- 1 受講に際しては、近距離（下図枠線内地区）に居住の方は、車でのご参加をご遠慮ください。（近距離にお住まいの方は、自転車・徒歩、又は公共交通機関等を利用しての受講をお願いします。
- 2 駐車場を利用希望される受講者は、受講申込の際に必ず駐車許可を申請ください。後からの申請では諸事情があっても許可できないことがあります。（近距離にお住まいの方は、駐車許可申請しても許可されない場合があります。近距離については下図を参照してください。）
- 3 駐車許可された方には、駐車許可証を発行しています。講座受講中は必ず、車のフロントガラスの外から見える場所に掲示してください。
- 4 駐車場における盗難・事故等については、一切の責を負いません。受講生各自で徐行運転等注意してください。
- 5 駐車許可証を忘れた方は、センター事務室で臨時駐車許可証をもらってください。



氏名 _____

【受講動機】(ワープロ・手書き等様式は問いません。A4版用紙を使って、1,000字程度にまとめてください。)

送り先：〒770-8502

徳島市南常三島町1丁目1番地

徳島大学大学開放実践センター

TEL：088-656-7276

【注意事項】

※FAXでの受付は行っていません。

※ご記入いただいた情報については、個人情報保護の観点から厳重に管理します。また、①講座への登録及び受講に関する連絡、講座の実施に必要なこと、②今後の公開講座等の案内、及び統計情報の作成の目的以外には使用しません。

公開講座受講生駐車許可申請書

氏 名			
出 発 地 (いずれかにレ印を付け、 自宅以外の場合は住所を記 入してください。)	<input type="checkbox"/> 自宅		
	<input type="checkbox"/> 自宅以外 (住所)		
出発地（自宅・勤務先等） から大学までの距離（片道）	自動車の場合	km	時間 分
	交通機関の場合	km	時間 分
許可条件①を満たさない方は 通学に自動車を必要とする理 由（交通機関、自転車当では不 自由な理由を詳細に記入して ください。）			
車 両 番 号 (例：徳島500 あ 1234)			

注) 7頁の「駐車場のご利用について」をよく読んでからご記入ください。

(参考)

1. 許可条件

- ① 近距離（7頁の下図枠内地域）にお住まいの方は、車での参加はご遠慮ください。（許可申請しても駐車許可できない場合もあります。）
- ② ただし、特別な理由により車での通学が必要とセンターが判断した場合は、駐車利用できます。

2. 距離は事前に距離計（トリップメーター等）で計り、できるだけ正確に記すこと。